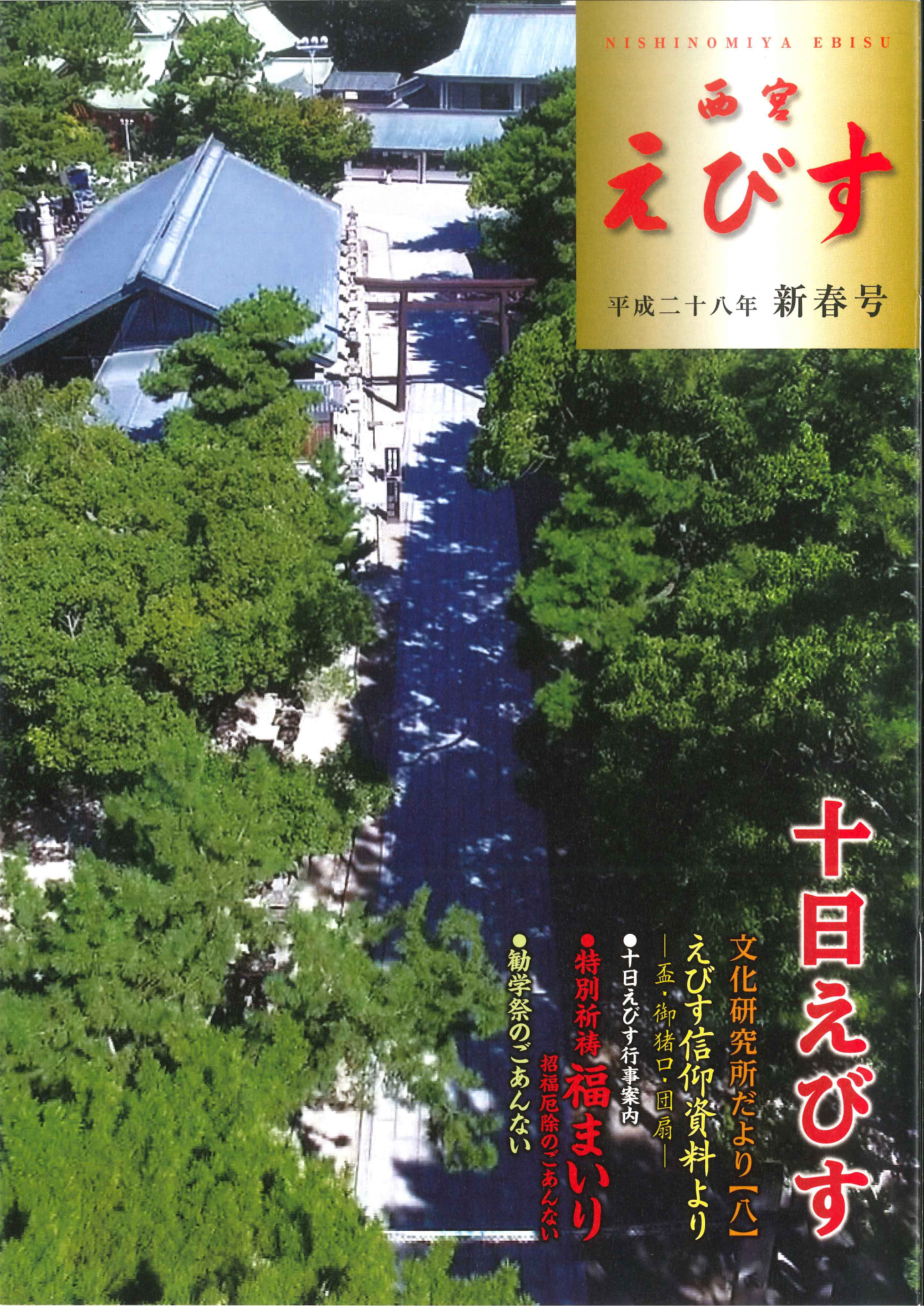
NISHINOMIYA EBISU

西宮えびす

平成二十八年 新春号



十日えびす

文化研究所だより【八】

えびす信仰資料より

―盃・御猪口・団扇―

●十日えびす行事案内

●特別祈祷 福まいり

招福厄除のごあんない

●勧学祭のごあんない

新春を寿ぎ みなさまの益々のご繁栄をお祈り申上げます

西宮神社 宮司
吉井 良昭

昨秋に「御社用日記」第三巻を刊行致しました。これは元禄七年（一六九四）から書き綴られた当社神主日記を多方面の方々の閲覧に供して、近世えびす信仰の研究の資として幅広く活用していただこうという目的の事業です。去る平成二十三年の本殿復興五十年の記念事業の一として元禄期十年分の日記を刊行、その後隔年に出版しこのたびの第三巻は享保二年から同十三年に亘る八代将軍吉宗公の時代で、種々の神事は勿論、当社独自の御神影頒布の組織・地域に関わる詳細な内容、また寛文三年に四代将軍家綱公により再興された社殿の初めての本格的修復の様子など興味深い事象が記されています。

当時の正月風景はどのようなものだったのでしょうか。三が日は天下泰平、玉体安穏、公方様・藩主の御安全御延命、武運長久また社頭繁昌、五穀成就さらに惣氏子の安泰を祈念する神事が続きます。四日からは氏子中へ神像札や祈祷神札を賦り、神主は五日に尼崎へ登城し藩主へ年始御礼を行います。正月十日には「芳々より群詣」と記されているように、社頭は十日えびす神事で大いに賑わっておりました。また正月十日に限り心斎橋や難波橋など大阪の町中でえびす神像札を頒布していたことも注目されます。

正月の重要な儀式として将軍家への年頭御礼が挙げられます。これは神主が江戸へ参府し正月六日に将軍の御目見得に預かるという儀式です。当社の場合、元禄期には毎年、元禄十六年以降はやや緩和されて隔年毎に行われました。前年の十一月に七日間連続の将軍家武運長久祈祷を奉仕し、その巻数を携えて十二月十日に西宮を出発、東海道を下り十二月二十五日頃に江戸参着。寺社奉行への届けや登城に必要な諸道具の準備を進め、年が明けて正月六日の六つ前（午前六時頃）に江戸城御下馬へ詰め、四つ過ぎ（午前十時頃）の大広間での公方様の御目見得に至るわけです。

御目見得には大きく分けて独礼と惣礼があり、更に独礼には内独礼と惣独礼があります。多人数で同時に行われるものが惣礼、限られた人数で名前を呼ばれ大広間下段で御目見得に預かるのが惣独礼です。享保二年の記載によると、独礼座として伊勢内外宮祠官、山崎・西宮・鹿嶋・武州府中六所・尾張熱田その他六、七人と共に一列で御礼を申上げています。続いて御老中へ祈祷巻数、三本入扇子箱、包熨斗を、さらに寺社奉行や藩主松平遠江守、前藩主青山家へ年頭御礼に訪れています。

東国への御神影頒布に関する諸事を済ませて江戸を出発したのは三月十一日、およそ三ヶ月にも及ぶ長期間の在府でした。大きな経済的な負担を伴うものでしたが、家綱公による社殿の造営や御神影頒布権の独占賦与という将軍家からの御厚恩に報いる儀式への出仕は、欠くべからざることとして励行していた、これが江戸期における当社の正月儀式でした。

幕藩体制から御一新を経て近代国家へと国の制度は大きく移り変わりましたが、日記が書き綴る三百年前から現在に至るまで、間断なく日々えびす大神様への神事は奉仕され、祈りと感謝が捧げられております。年始から十日えびす、二月にはえびすさまの福参り（招福厄祓）、三月から四月にかけてはお子様の勧学祭と、伝統的な神事に新たな祭りが加わって本年も福の神えびす大神様への神事が厳粛に斎行されます。

みなさまに福多き年でありますようお祈り申上げ年頭のご挨拶といたします。

文化研究所だより(八)

江戸時代のえびす開帳

開帳とは、普段公開しない仏像などを一定の日を限って人々に拝観させることで、自らの寺社内で行う居開帳と、他所の寺社などの場所に移して行う出開帳があります。平成二十七年に行われた善光寺開帳などは居開帳の事例として有名です。そして、英訳でも「exhibit a Buddhist image」とされるように、現在は一般的に寺院の行事として知られています。しかし、江戸時代には神社でも開帳が行われており、西宮神社でも六回の居開帳が確認できます(表)。そこで、なぜ、どのように実施されたのかをご紹介したいと思います。

■

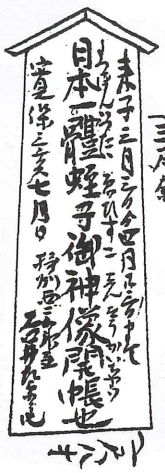
江戸時代、開帳が一般化するのは幕府の方針と関係があるとされます。初期には幕府が直接出資をして寺社の造営・修復を行っていましたが、元禄期以降、財政逼迫に伴い、幕府は開帳と勧化(寺社造営のため一般に寄付を求めること)に許可を与えるというように、資金は寺社側の自助努力で、しかし幕府がお墨付きを与えてそれを行わせるかたちをとることで権威は維持する、という方針へと転換しました。

西宮神社の場合、開帳の初見は享保七年(一七二二)で、目的は夷・南宮・広田三社の屋根修復でした。寛文期の四代将軍徳川家綱による造営から約六十年を経過し、本格的修復の必要があったものと思われますが、寛文期は幕府による造営であるのに対して、享保期に初めて開帳を企画しているという点は、幕府の方針転換によるものといえましょう。また、初の開帳ということで、大坂町奉行所などへ実施許可を出願する際、神主らは大坂・尼崎にて河内国誉田八幡宝物開帳の立て札を見たという情報を得て、祝部を同社へ派遣して「神官ニ面談申、開帳ノ様子相尋可被申候、其様子聞合、願可申上候」(享保四年十月二十六日条)と、様子を照会したり、大坂町奉行所与力より提出願書について「開帳ノ場所神前ト斗ニ而ハ何方ノ神前ニ而候哉不分明候間、西宮ニ而候ハ、西宮本社神前ニをゐて与書加」(享保六年十一月二日条)るようにと添削をうけるなど、何をどのように出願すべきか、そのノウハウを獲得するところから始めねばならなかったようです。

享保度開帳は、三月一日～四月二十一日の五十日間、三連春日造りの本殿向かって東側の第一殿前に沖夷神像(普段は沖夷社に安置ヵ)を出し、その他宝物類も展示されました。また、開帳が三社屋根修復費用の確保を目的としている以上、多くの参詣者に来社していただかなくてはなりませんので、あらかじめ立て札を諸方へ設置しています(図)。設置場所は摂津国では伊丹・池田・郡山(大阪府茨木市)・有馬・三田、播磨国では明石・姫路・室津、さらに淡路国などと記されています。告知が目的ですから、摂津・播磨・淡路の城下町・宿場町や港町など、やはり人の集散する場に設置されています。

その結果、期間中多数の参詣者があったようで、寄進・散銭は金二十七～八両、銀五百九十匁(金換算で約十両、以下同じ)・銭十三貫(約三両)、十二燈明料銭百五十貫(約三十七両)、御神影札頒布額銭百六十貫(約四十両)、さらに諸商人に境内地を貸し出して得た地代も銀二貫(約三十三両)ありました。金換算合計で約百五十両という膨大な金銭が短期間に集まったわけです。

なお、今回ご紹介した享保度開帳については、先日刊行された『西宮神社御社用日記』第三巻(清文堂出版、二〇一五年)において詳細に記されています。



【図】開帳立て札(寛保三年御社用日記より)

(釈文)

三尺余

来子三月三日ゟ四月廿三日まで
日本一體蛭子御神像開帳也
寛保三亥七月日　摂州西宮神主
吉井左京亮

〈表〉近世開帳一覧

	開始	終了	期間	間隔	理由	神主
1	享保7年(1722)3月1日	4月21日	50日	—	広田・西宮屋根破損修理	45代良信
2	延享元年(1744)3月3日	4月23日	50日	22年	諸所破損・元文5年水難	46代良行
3	宝暦14年(1764)3月3日	4月23日	50日	20年	諸所破損	47代良知
4	寛政3年(1791)3月3日	4月23日	50日	27年	諸所破損	48代良足
5	文化8年(1811)閏2月20日	4月10日	50日	20年	修覆助成	49代良明
6	天保11年(1840)3月3日	4月23日	50日	29年	修覆助成	50代良顕

(西宮神社文化研究所主任研究員　松本和明)

えびす信仰資料より

―盃・御猪口、団扇―

えびす様の信仰に係わる資料は、約八百点を蒐集しておりますが、主には、御神像（土人形、木像、張子像など）、御面、土鈴、御神影札、絵馬、熊手、福笹、また書籍類、ポスター（引き札）等です。今回お示しいたしますのは、一般工芸品に分類されてありますの「器物」の中から御猪口や盃、そして「その他」に分類の団扇類です。

九谷焼 えびす様盃

磯辺で鯛を擔いだ姿のえびす様

飲み屋さんのお猪口

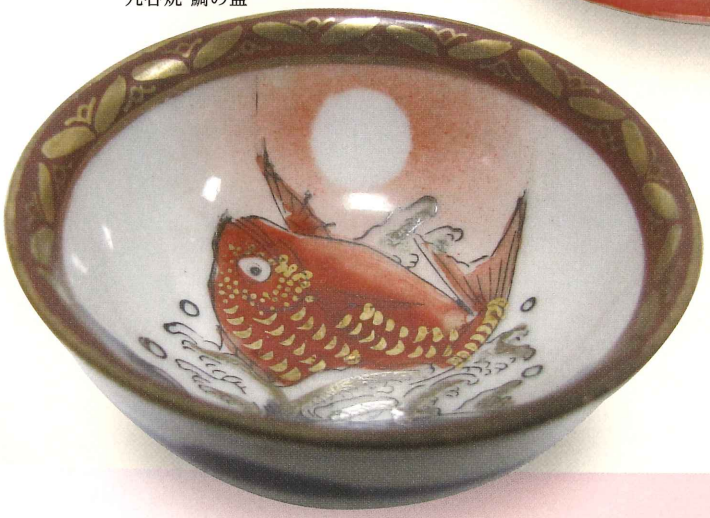
九谷焼 えびす様盃

えびす・大黒・弁天の三神

華やかで上品な小鉢か杯

九谷焼 えびす様盃

九谷焼 鯛の盃



九谷焼 お猪口

鯛の上に乗る陽気なえびす様

◎盃、御猪口

九谷焼の御猪口がいくつも集められています。近年あまり使われなくなりましたが、どこの家庭にもいくつかは有ったと思います。

◎団扇

平成十九年から、御興屋祭と夏祭りに合わせ、団扇を製作授与してまいりました。今年十回目のデザインは何になるのでしょうか。

あらたまの年の初めの福参り

十日えびす

十日えびすは、阪神間最大のお祭りとして、一月九日から十一日の三日間行われ、全国から福を求める百万人もの参拝者で境内は賑わいます。

一月九日(土) 宵えびす

午後二時 有馬温泉献湯式

午後四時 宵宮祭

有馬温泉献湯式

日本最古の名湯をえびす様に

関西の奥座敷とも云われる神戸の有馬温泉から金泉が奉納され、有馬温泉の繁栄と旅館組合の商売繁盛が祈願されます。湯女に扮した芸妓さんが、湯もみ太鼓のはやしに合わせてお湯を適温にさます「湯もみ」を披露します。

一月八日(金) 招福大まぐろ奉納式

午前九時半頃

招福大まぐろ

十日えびすの始まりを告げる

大漁と商売繁盛を願って、神戸市東部水産物卸売協同組合など三社から、大まぐろが奉納されます。「銭が身に付く」と願をかけ、賽銭を貼り付ける参拝者が大勢訪れます。

福笹の特別授与

福笹の特別授与

十日えびすの期間中、お札や福袋の縁起物を付けた福笹が神社から特別授与されます。また拝殿周辺には吉兆店が軒を連ね、大小さまざまの熊手・福箕が所せましと並びます。

一月十日(日) 本えびす

午前四時　十日えびす大祭
午前六時　開門神事福男選び

十日えびす拝殿

開門神事福男選び

一番福を目指して

忌籠りを行い、身心を清めた神職により十日えびす大祭が斎行された後、午前六時を告げる大太鼓と共に表大門(おもてだいもん)が開かれ、一番福を目指す五千人もの参拝者が一斉に走り参りをします。本殿に到着した一番から三番までがその年の福男として認定され、ご神像を始め特別な賞品が授与されます。

一月十一日(祝) 残り福

新春祈祷・神楽奉納のご案内

正月・十日えびすの期間中、本殿での昇殿祈祷を行います。新年をむかえ、ご神威も新たなえびす様の大前で、一年の福徳円満をお祈りください。ご来社のかなわない方には、郵便でのご祈祷も承っております。また祈祷殿神楽所ではお神楽を行います。どうぞお神楽を奉納され、より大きな福をお受けください。

御祈祷

一月一日　午前〇時～午後六時
二・三日　午前九時～午後六時
九・十一日　午前八時～午後十時五十分
十日　午前六時～午後十時五十分

◎祈祷料　個人　五千円(商売繁盛、家内安全、その他諸祈願)
会社団体　二万円

お神楽

一月九・十一日　午前八時～午後十時五十分
十日　午前六時～午後十時五十分

◎神楽料　三千円
(十日えびすの期間に一万円以上の祈祷料をお納め頂いた方には、無料で神楽をお受け頂ける神楽券をお渡しいたします)

西宮神社の特別祈祷

福まいり～招福厄除～

えびすさまのご加護のもと清々しい一年を

えびすさまの福をお授けする特別祈祷。
清浄を旨とする、えびすさまのご神徳により、
災厄を祓い除け福が授かります。今年厄年の方に限らず、
節分・立春のこの期間にご祈祷を受けられ、
清々しい一年をお過ごし頂きますようご案内申し上げます。

◎期間／平成二十八年一月三十日～二月七日
◎特別祈祷料／一万円
祈祷殿にて受付、奉仕いたします。

福まいりのご祈祷を受けられた方には、
特別撤供「えびすさまの御幣」
をお頒ちします。

えびすさまの御幣

えびすさまの

勧学祭

えびすさまにお参りして元気で、勉強がんばろう

四月に小学校新一年生となるみなさま、
おめでとうございます。
また春に新しい学年を迎える
子供達も期待に
胸をふくらませている
ことでしょう。
西宮神社では左記の期間に、
みなさまの学業が更に上達する
ようにと「勧学祭」をおこないます。
福の神えびすさまにお参りをされ、
楽しく明るい学校生活が送れますように、
健康で元気に過ごせますように、そして勉強や習い事が
益々向上、上達するようにとお祈りしましょう。

勧学祭のご祈祷を受けられた方には、
えびすさまの「学業上達・交通安全」お守りや
えびすさまの文具が授かります。

◎期間／平成二十八年三月十日から四月十日まで
◎場所・時間／祈祷殿にて　午前九時から午後四時半まで受付
◎祈祷料／五千円

えびすトピックス

教化活動・子供会

「えびすの森 春休み子供観察会」「夏休み子供会 神社体験学習会」

学校教育、家庭教育の補完を一つの目的として、どちらも四回を重ねました。ささやかな試みではありますが、子供等の心の中に、何らかの芽生え、「目次」「引出し」のようなものが出来たのではないかと思っております。

人と自然・森林との共生、神々への感謝、御祖たちへの感謝、そして日本の歴史への感謝を感じる糸口になってもらえたらありがたいと思い、継続してまいります。

夏休み子供会神社体験学習会に参加の子供たち

えびすの森春休み子供観察会

月見の宴

平成二十七年の中秋の名月は、例年になく地球に近く明るく大きなお月様が見られました。月夜見尊のイメージを変えるようなスーパームーンのもと、二世梅若猶義様、立花香寿子さまによる「羽衣」を鑑賞し、心豊かなひと時を過ごしました。

月見の宴で能「羽衣」を観覧される参加者の皆様

えびすトピックス

本えびす講社、日供講社、末社講社 講員参拝研修旅行

九月二十九日、滋賀県長濱八幡宮などを参拝する研修旅行が行われました。第一回の多賀大社に続き今回も多数の御参加が有りました。

二十八年春秋は和歌山県を予定しております。お楽しみに。

参拝研修旅行に参加の皆様

備品倉庫、職員寮の新築

平成二十三年が本殿復興五十年の年であったのを記念し、御社殿の修復、祈祷殿の新築などを完遂し、補完的事業として備品倉庫、職員寮の建設を進めてまいり、八月末に完成しました。

昭和三十年代に建てられた職員住宅が三棟、ここ数年は住む者もなく、草茅に中にかろうじて物置として役目を果たしていました。

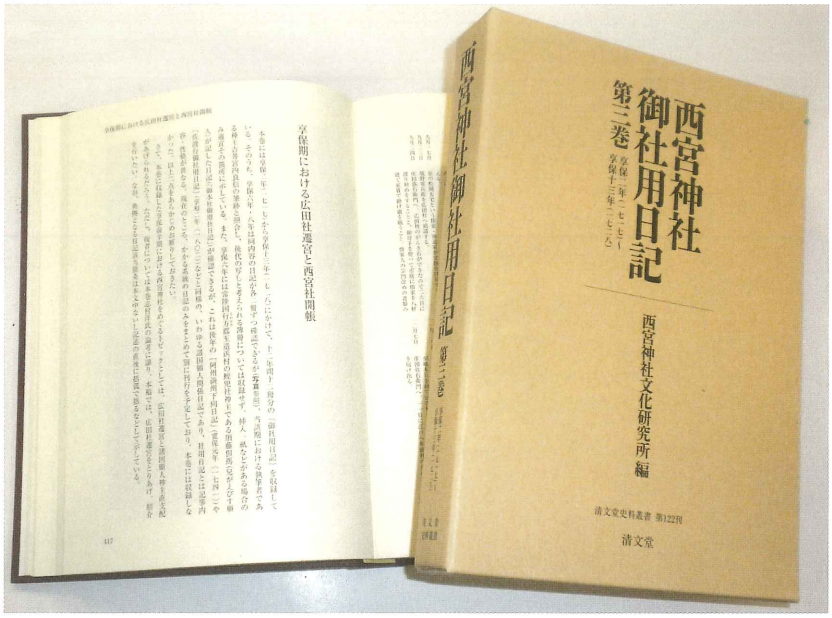
整理術、などと言って物を捨てましょうということが流行っているようですが、余裕があれば何でも残して、取捨は後世の人々に委ねることが、子孫の為になることもあります。少し余裕が出ましたが、書類の山に埋もれてしまわないようにも気を付けたいと思います。

職員寮は、若い神職が境内で寝起きし、いざという時にはすぐに駆けつけられることが望ましいという観点から併設されました。ほとんどの神職が境内または近辺に住まいすることになります。

新築された備品倉庫と職員寮

御社用日記 第三巻 刊行

このたび『西宮神社御社用日記』第三巻（享保二年〈一七一七〉～同十三年〈一七二八〉）が上梓されました。この時期、徳川家綱による造営以降初の本格的修復となる夷（えびす）・南宮両社屋根修復と広田社遷宮、そしてその資金捻出を目的とする開帳や神事の再興、さらに諸国えびす願人（がんにん）への神主直支配開始など、様々な事業・改革をおし進めており、その生々しいやりとりが記されています。難解ではありますが、是非ご一読いただきたい史料です。



書籍については清文堂出版（〇六-六二一一-六二六五）、又は社務所までお問い合わせください。

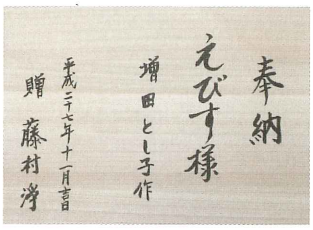
えびす舞人形奉納

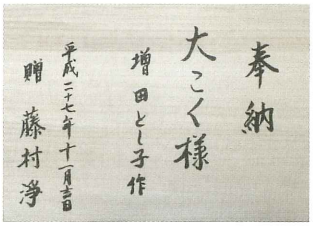
西宮市在住の藤村浄様、満百四歳の長寿を迎える事を感謝し、十一月十二日、戎舞人形を奉納されました。

一昨年はやはり「翁のえびす」「幼なえびす」「翁百太夫」の三体を奉納しておられますが、今回は「えびす・大国」大・小各一体、「若えびす」一体の五体の奉納となりました。

人形遣いとして「語り部 西宮物語」を主催しておられる吉田朋子様、御尊父藤村浄様の御代理として、御主人一夫様、作者の増田とし子様と御参列、奉納式を執り行いました。

奉納式に参列された方々と奉納された五体の人形





西宮えびす 平成二十八年新春号（通巻第四十四号） 平成二十七年十二月一日 発行
発行／西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17 電話 0798-33-0321 FAX 0798-33-5355
編集／文化課 印刷／小西印刷所

INFORMATION インフォメーション

平成二十八年 一月～五月行事案内

■一月

一日	六時	歳旦祭
二日	十時	奉射事始祭
三日	九時半	元始祭
五日	十一時	百太夫神社祭
七日	十時	昭和天皇祭 遥拝
八日	九時半頃	招福大まぐろ奉納式
九日	十日えびす・宵宮	
	十四時	有馬温泉献湯式
	十六時	宵宮祭
十日	十日えびす・本えびす	
	四時	十日戎大祭
	六時	開門神事福男選び
十一日	十日えびす・残り福	

■二月

三日	十時	節分祭
六日	十一時	初午祭（境内末社 神明神社）
十一日	十時	紀元祭
十七日	十一時	祈年祭

■三月

二十日	九時	春季皇霊祭 遥拝

■四月

二日	十一時	境内末社 松尾神社祭
三日	十一時	境内末社 梅宮神社祭
九日	十一時	境内末社 宇賀魂神社祭
二十九日	十時	昭和祭

■五月

一日	十時半	西宮郷醇友会太々神楽祭
三日	十一時	大阪第一招福組太々神楽祭
四日	十一時	日供講社太々神楽祭
五日	九時	子供の日祭
	十三時半	西宮太々講社神楽祭
	（えべっさんこどもまつり）	
六日	九時	境内末社 六甲山神社祭
	十一時	諸国講社太々神楽祭
十日	十一時	本えびす講社太々神楽祭
十五日	十一時	境内末社 大国主西神社祭

※毎月一日、十日、二十日は旬祭が斎行されます。どうぞご参列ください。（一月は二十日の下旬祭のみ行われます）
※毎朝九時（四月から八時半）より大祓詞を奏上し朝拝いたします。どうぞご参加ください。

神楽・悠久の舞

西宮神社では、豊栄の舞、浦安の舞を祭典・祈祷婚儀で奏していました。今年の春よりは、神社音楽協会の先崎経子先生をお招きし悠久の舞の教授を受け、旬祭に奉仕しています。

舞装束も本格的に整え、二人舞ではありますが神前に奉納いたしました。

正月十日えびすの献菓子

今年から正月、十日えびすに、お米や、薦樽のお酒などに加え、個人で御菓子の奉納を承ることになりました。

西宮の銘菓の中から、門前町の谷矢製餡の戎金鍔、君栄堂の和菓子、千鳥屋の千鳥饅頭などをお供えいただき、今年一年のえびす様からの御加護を祈念して頂きます。

西宮神社祭祀課（0798・33・0321）へお問合せ下さい。

編集室から

昨年平成二十七年も多忙な一年であったやうに思ひます。我が国が「らしさ」を取り戻しつつあるやうにも見え、いよいよ溶解し始めてゐるやうにも思へ、心あわただしい時間が流れてゆきました。

「日本」を憧憬する外国の人も大勢ゐる中、反対にこれを憎む内外の人々もゐます。特異な民族国家の運命なのでせうか。

今年もまた、様々なことに、八百萬の神、西宮えびす大神のやさしく暖かい御加護が及び、平安な暮らしが保たれます様、祈念いたします。

twitterで西宮神社の
最新情報を
http://twitter.com/nishi_ebisu
twitter

西宮神社 公式サイト 検索
http://nishinomiya-ebisu.com

西宮神社
公式サイト
QRコード